



祝 旭日双光章受章

旭日双光章受章

吉岡均二先生

平成22年

秋の叙勲で

平成22年秋の叙勲において、北星会前理事長であります吉岡均二先生が、保健衛生功労の分野で、「旭日双光章」

を受章されました。これは、「社会の様々な分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者を表彰する場合に授与する」とされているもので、これまで医療・福祉の面から地域に尽力してこられた吉岡先生の功績が認められたものであります。



旭日双光章

理事長辞任にあたり、ご挨拶

前理事長 吉岡均二



昭和51年、社会福祉法人の認可を得て昭和52年4月特別養護老人ホーム「天橋園」を開設してから34年になります。以来、高齢化の進行と共に行政の依頼もあり「与謝の園」「老健施設なぎさ苑」「天橋の郷」そして各種居宅サービス施設等、法人も大きくなりました。私も平成22年秋の叙勲で「旭日双光章」の栄に浴することになりましたが、これも、法人の役員様はじめ各施設の職員の皆様のお陰と深く感謝しております。

しょうが高齢でもあり、これを機に理事長を辞任し、あと事務局長の青木眞久氏にお願いすることにしました。今は介護保険の時代で、措置制度と言われた頃の所謂「親方の丸」的運営と異なり自由競争の厳しい経営がとめられます。法人創立の苦労以上の苦労があると思います。社会福祉法人「北星会」がさらに発展するためには新しい理事長のもと三つの誓い「真心込めた介護サービス・職場での和を大切に。一人一人が経営努力」を合言葉にこれからの苦難の道を乗り切って頂きますようお願いして辞任のご挨拶いたします。

吉岡先生には、今後も理事として北星会の運営に参画して頂きます。

吉岡均二 略歴

大14 宮津市に生まれる

昭24 京都大学医学部卒業

昭25 医師免許取得

昭34 宮津市に「吉岡医院」開業

昭51 社会福祉法人北星会設立。理事長就任

昭52 特別養護老人ホーム天橋園開園。嘱託医就任

宮津市長（昭51）

京都府知事（昭48・55・平4）

自治大臣（昭51）

京都府社協会長（昭63）

厚生大臣（平6）

北星会の主な歩み

昭51 社会福祉法人設立

昭52 特養天橋園開園

昭60 特養与謝の園開園

平13 老健なぎさ苑開苑

平17 特養天橋の郷開園

以上4施設を基盤に、

訪問・通所・通所リハビリ・

認知症対応型通所・短期

入所生活・短期入所療養・

高齢者グループホーム・

訪問入浴・居宅介護支援

の全23事業所を展開して

います。

吉岡先生と私

天橋園 看護主任

辻川 朝子

吉岡先生、叙勲受章おめでとうございます。また大変長い間理事長として本当にお疲れ様でした。

天橋園の看護師として勤め始めてもう23年になります。約30年前、私が吉岡医院に勤務していた頃の先生は、頭の方からつま先まで若々しく、活力に溢れ、毎日休む間もなく仕事に、また趣味にご活躍でした。

そんな先生と毎日往診に行っていました。往診先でのお年寄りやその家族の苦痛を見聞きすると、帰りの車中では必ず、「年寄りが安心して生活ができ、自然に安らかな最期を迎えられる場：それが老人ホームだ！」と天橋園の必要性を熱く語らね、それをいつも聞いていた助手席の私は、知らず識らずのうちに看護師として老人ホームで働くことの意義や遣り甲斐をインプットされたように

思います。

昭和52年に特養天橋園が開園し、先生は嘱託医に就任され、その後昭和63年からは天橋園に診療所も開設。昼夜問わず先生のご活躍の場が多くなりました。その頃の先生は私たちに

「わしも動けんようになったらここであんたらに世話してもらおうで〜」と職員に笑顔で言われるのが口癖でした。あの頃を知る職員も今は少なくなり、私の親も老人に変わり私自身も老いを感じ始め、改めて先生が口にされる「老人・家族・介護・看取り」の思いを深く受けとめられる年齢になりました。

先生と出会い、老人を知り、老人ホームを知り、数々の痛みを知り、大勢の方の人生を知りました。私にとって吉岡先生への『先生』は医者という意味だけでなく、人生の先生として尊敬し、感謝している気持ちの表れです。これからもますますのご活躍を願っています。

吉岡先生

随筆集を出版

吉岡均二先生（前理事長・現理事）が昨年9月に自費出版にて書籍を発行しました。

題名は「随想とスケッチ」。医師である吉岡先生がこれまで与謝医師会報に投稿してきたものを中心に、専門の医療の事

吉岡先生に感謝状

利用者・職員より、
長年のご労苦と受章に

昨年11月8日、天橋園の西ユニットにて、旭日双光章受章と医師として長年お世話になったご労



一人一人から花束を受け取る吉岡先生
(撮影：太田博士)



先生の想いがたくさん詰まっています

をはじめ、福祉に対する想いや長年の趣味である絵画のこと、旅行先での出来事など、様々な分野にわたって書きおろした

苦をたたえて吉岡先生の表彰式を行いました。

先生には当日まで内緒にしていたので、急に呼び出された先生は「なんやなんや？」とユニットへ。

手作りの感謝状を尾上さんが読み上げたあと、これまた手作りのメダルとひとりひとりからの花束とともに贈呈。先生は笑顔でひとりひとりと言葉を交わり、握手をし、最後には、「今日は、思わんことでびっくりしました。皆さんありがとう。これからも体を大切に、元気で、『生きて』下さい」と挨拶がありました。



満面の笑みで先生を表彰 (撮影：太田博士)

た。小巻さんの「よかった、よかった」の一言に会場は笑いに包まれ、ほんの少しの時間ではありましたが、和やかで、感謝の気持ちに満ちた式となりました。(太田博士)

エッセイ集となっています。加えて今まで描きだめた作品(絵画)も多数掲載され、自身も「わが分身」と言うほど今日までの思い出を織り込んだ内容となっています。販売はしておりませんが、事務局にて貸出ししますので、お気軽にお問い合わせ下さい。宮津市立図書館にも所蔵されています。(小奥光朗)